

# KOMTown

神楽坂・大塚・目白エリアの店舗や企業を紹介する情報誌「コムタウン」



文京区 護国寺

2015.4.1 VOL.4

Free

ご自由にお持ちください。

Special edition

# 坂の街

本紙はASA神楽坂・ASA大塚仲町・ASA目白が発行する地域活性情報誌です。地域の新しいお店・おいしいお店・オシャレなお店や昔からの地域を拠点とされている歴史ある店舗や企業を紹介しています。新聞販売店ならではの機動力と地域に密着した取材力を活かし、最新情報を配信！ぜひ、地域の皆様の日々の暮らしにお役立てください。

【発行・お問い合わせ先】

明日のチカラ、届けます。

 Himawarido

ASA神楽坂 〒162-0843新宿区市谷田町3-3 TEL.03-3268-3836  
ASA大塚仲町 〒112-0013文京区音羽1-15-12 アルス音羽1F TEL.03-3941-3068  
ASA目白 〒171-0033豊島区高田2-18-24 TEL.03-3971-9436

編集：株式会社朝日メディアネットワーク内KOM Town編集室 TEL.042-548-0578  
発行日：2015年4月1日  
発行部数：58,700部  
配布地域：神楽坂、大塚仲町、目白エリア  
※本紙記載の記事、写真、イラストなどの無断使用を禁じます。

本誌掲載の店舗情報一覧は下記のQRコードもしくはURLからご確認頂けます



▼URLはこちら! ※スマホ、ケータイ専用ページです。

<http://asa-ok.jp/komtwn/list/>

komtown 店舗情報

QRコードが読めず、URLが不明な場合は、URLを直接入力してください。

# KOMTown

## coupon card

有効期限：2015年7月31日まで

- KOM Townに掲載されているクーポン特典付の全店舗にご利用できる共通クーポンカードです。
- 各店指定のクーポン特典をご利用の際は、このカードもしくは本紙を店舗スタッフにご提示ください。
- 各店舗広告内のクーポンQRコードから、Webクーポンをご利用頂く事も可能です。

## Gokokuji &amp; Otowa walks



護国寺前の春日通り付近はかつて富士見坂と呼ばれた。  
天候条件さえ合うと坂の上からは富士山の姿が見える。

**都** 心で深呼吸。緑多く静謐な町を歩く。東京23区には神社仏閣が多いという。これは江戸が城下町として発展したことと関係が深い。江戸の町割りに防衛的な考慮が払われ、多くの寺院が城下町に配置されたためだ。



音羽通りからの眺望 台地の高低差がわかる

**大** 塚五丁目にある護国寺は真言宗豊山派の寺。護国寺のすぐ側は、オフィスビルが立ち並ぶ賑やかな都心である。しかし、護国寺の広い敷地にはたくさんの緑が溢れ、足を踏み入れればつい深呼吸をしたくなる。

護国寺は、天和元年(1681年)に時の将軍徳川綱吉の母、桂昌院の願いをうけ、綱吉侯が高崎の大聖護国寺住職であった亮賢に高田薬園の土地を与え桂昌院の祈願寺、護国寺の建立を命じ、創建された寺である。御朱印寺でもある護国寺は、御府内八十八カ所霊場87番、江戸三十三カ所霊場13番だ。明治16年(1883年)、大正15年(1926年)の大火で多くの堂宇を消失するも、関東大震災や戦災を乗り越え、未だ創建時に近い元禄年間(1688年～1704年)に建てられた建造物が存在する。

このため、国指定重要文化財である本堂、月光殿をはじめとした数多くの建物や美術品などが文化財として指定されている。



春日通りと音羽通りの交差点に位置する護国寺入口

通りに面した入口の惣門は、文京区指定有形文化財だ。惣門の傍らには区教育委員会の説明があり、以下のように記されている。

～この惣門は、護国寺の方丈への軸線上にあり、寺院の門と共に住宅の門という性格をあわせもっている。形式は、社寺系のものではなく、江戸時代武家屋敷門の五万石以上の大名クラスの、格式に相

当する形式と威容をもっている。当寺が幕府の厚い庇護のもとで、高い格式を保持した歴史を反映している。大名屋敷表門で現存するものは、いずれも江戸時代後期のものであるのに対して、この門は、中期元禄年間のもので、特に重要な文化財である。～

**そ** の惣門を歩いてから左へ道を歩くと、国指定重要文化財の1つであり建立当時の姿を今に留める護国寺本堂に出る。護国寺のご本尊は桂昌院の念持仏であった六寸五分の天然琥珀製如意輪観世音菩薩像だ。この如意輪観世音菩薩像は秘仏として、元禄13年(1700年)に非公開とされた。その後、新たに大老堀田正俊の母、栄隆尼により平安時代の恵心僧都作と伝えられる木製の如意輪観世音菩薩が寄進され祀られた。この観音像は、毎月18日の縁日にだけ開帳される。



護国寺 本堂

ここに立つたびに母を想って参詣した綱吉侯の姿を偲びつつ、さらには様々な災害を免れて、今も都内に元禄時代そのままの姿の大建築物が残っていることに素直に感動し、手を合わせるのだ。

そんな護国寺は、私にとって都会の喧噪を忘れ、一時の物思いに耽るに最適な場所だ。近頃は、カメラを片手に境内の猫を撮りに来ている方も見かける。

確かに境内では人に慣れた猫たちが

参詣の人々に動じることなく、陽だまりで気持ち良さげに目を細めたり、毛づくろいをする姿が見られる。この光景には、護国寺の建立を命じた綱吉侯が出された「生類憐れみの令」との因縁を感じざるを得ない。生類憐れみの令の対象は「犬」だけかのように思われがちだが、実際は犬に限らず、猫、鳥、魚、虫、貝などの生き物から幼児や老人にまで及んだ。この法令が後にエスカレートし、「天下の悪法」として人々に認知されるに至ったが、本来は「殺生を慎め」という意味の精神論的法令であったようだ。



護国寺 骨董市

**実** に落ちついた雰囲気護国寺だが、毎月第2土曜に開かれる骨董市にはたくさんの人が訪れ、平日とは違った賑わいを見せる。掘り出し物を求める骨董に明るい人や、骨董以外の掘り出し物目当てのフリーマーケット感覚の人などが、商品を挟んで会話を弾ませる。この日ばかりは人に慣れた護国寺の猫たちも姿を隠すようだ。

**護** 国寺駅から音羽通りに沿って歩くとすぐに、音羽通りにひっそりと佇む和菓子屋「群林堂」がある。

この群林堂は大正初期の創業。名物は大きな豆大福だ。この豆大福は、東京三大豆大福のひとつとして数えられている。また、この界隈は昔大きな出版社が軒を連

ねていたことから、著名な文豪たちもこの群林堂の豆大福を愛したという。北海道富良野産の赤えんどう豆、同じく北海道十勝産の小豆など、厳選した素材を使い2代目主人が店の味と伝統を頑なに守っている。絶妙な塩気の餅とたっぷり入った赤えんどう豆があっさりとした餡の甘さと見事に調和し、どうも後を引く美味さなのだ。護国寺界隈を散策する際には、是非とも散策の友として欲しい愛すべき味だ。手土産としてたくさん買い求める人もおり、10時の開店とともに行列ができることがあるため、護国寺散策は早めの出発がおすすめである。大福を手にしたところで、もう少し江戸川橋側へ歩を進めたい。

**以** 前本誌で、坂の町という特集を組んだことがある。それほどに東京は坂が多い。ここ、護国寺周辺もその例に漏れない。音羽通りと平行に走る首都高速道路を見ながら江戸川橋方面に歩くと、この首都高速道の側に東京音楽大学の附属高校があり、その脇にはなだらかな傾斜を描いて上る坂がある。鉄砲坂だ。鉄砲坂と呼ばれる坂は各地に多く存在する。どうもこれは、鉄砲の射撃用にその坂を用いたことに由来するようだ。数ある鉄砲の中でも、ここ目白台にある鉄砲坂には「御持筒組」(鉄砲隊)の屋敷が数多くあったそうだ。この「御持筒組」は有事には将軍の鉄砲を預かる与力同心を率いる組だ。

今は静けさに溢れる閑静な住宅街となっているが、当時の面影を探して目を凝らし、想いを馳せるのも面白いだろう。



鉄砲坂

**こ** のまま坂を上がり、更に歩を進めると大きな敷地が見えてくる。そこは東京カテドラル聖マリア大聖堂だ。この大聖堂は1964年に落成。丹下健三が設計を担当し、丹下の最高傑作という声も多い。1899年にこの地に最初に建てられた木造ゴシック様式の聖堂は1945年に戦火で消失。その後、敗戦による物資不足などの経済的な理由から、長らく再建されないままであった。しかし、日本へのカトリック再布教100年事



国指定重要文化財を多く残す護国寺境内と本堂

## Gokokuji &amp; Otowa walks



## 護国寺を中心に音羽通りがのびて勾配のある坂道が幾つも点在する。 文化と歴史を多く残す情緒ある街並と風景。

業の一環として、ドイツケルン大司教区の支援を受けながら、カトリック教大司教区主催による東京聖カテドラル聖マリア大聖堂の指名コンペが行われた。指名を受けたのは、前川國男、谷口吉郎、丹下健三の3名で、与えられた設計期間は6ヶ月。設計条件は特になく、宗教行事を執り行う上で必要不可欠なものを備えていればよいとされた。

その中で、建物そのものが頂部において十字架型になるという丹下の案がひときわ異彩を放ち当選。また、丹下は建物本体の記念碑性だけでなく「場」の力によって聖性を生み出すことを目指した。このため、丹下は敷地の奥の「ルルドの洞窟」に向かって進み、そこから転回するようにして階段をのぼり聖堂に至るという動線をとる建築計画を立てた。これは、まず鳥居や山門をくぐって参道を歩みつつ気持ちを整え、それから「本尊」に相対するという非常に日本的な手法だ。また、教会に付属する周辺施設との配置バランスに優れた全体計画も高評価の理由であったようだ。



東京カテドラル聖マリア大聖堂

**東** 京カテドラル聖マリア大聖堂では原則毎月第2金曜日にオルガンメディテーションを行っている。

この日は、誰でも教会の伝統的な祈りのひと時とオルガンの調べを堪能することができる。会場の都合や特定の期間など、開催を中止していることもあるので、参加の前には忘れずに開催の有無を確認して頂きたい。東京カテドラル聖マリア大聖堂を後にして、獨協大学付属中学、高校側から目白通りにできればすぐに椿山荘だ。



椿山荘

**こ** の地は古くから椿が自生する景勝地だったため「つばきやま」と呼ばれており、江戸時代は久留米藩黒田氏の下屋敷であった。その後、明治の元勳である山縣有朋が自分の屋敷として購入し、椿山荘と命名した。1918年(大正7年)には大阪を本拠とする藤田財閥の2代目当主藤田平太郎男爵がこれを譲り受け、東京での別邸とした。戦災で一部を消失したことが悔やまれるが、こちらも歴史ある場所だ。

現在、庭園は一般公開されており、季節の植物や史跡などが鑑賞できる。



音羽通りから椿山荘裏手の庭園側を沿うように流れる神田川は、桜の時期にソメイヨシノが満開に咲くと、川面も景色も薄ピンク色に染めあげ絶景の場所となる。

**様** 々な見所がある庭園で、庭園内のランドマークともいえる三重塔は、もともと広島県加茂郡入野の山上伽藍、篁山竹林寺(たかむらさんちくりんじ)に創建されたものであった。しかし、修理の手が行き届かず上層部が大破したまま放置されていたものを、大正14年(1925年)、時の当主であった藤田平太郎が譲り受け解体し、椿山荘に移築したのだ。創建の年代は不明となっているが、その様式が和様と禅宗様の折衷様からなることなどの特徴から、室町時代末期の作と推定されている。また、この塔は都区内に現存する古塔三ヶ所のうちの一つであり、貴重な登録有形文化財でもある。そして、敷地内にあるしめ縄のついた椎の木は椿山荘最古の樹木で、その樹齢は500年。当荘の御神木である。

順路としては前後してしまいが、椿山荘を訪れた際には忘れずに見ていただきたいものがある。

それは「福の亀」だ。福の亀は、まるで岩に彫刻を施したかのように見えるのだが、実は天然の御影石だ。福の亀の解説には、次のように書かれている。

～この亀の形をした石は、山梨県東山梨郡牧丘町大室の標高1,000メートルの山

中で発見されたもので、全く天然のままの甲州御影石です。亀甲模様の線は長年風雨にさらされて、石の軟らかい部分が風化してできたもので、1万年以上の年月を経ていると推測されています。長寿と幸せのシンボルとしてご鑑賞ください。～

1万年以上という長い年月をかけて自然が作り出したという事実や、その愛嬌のある姿は、結婚式の多い椿山荘に誠にふさわしいと思うのだ。時間に余裕のある方は、ぜひ幽翠池に向かう坂道の植え込みにある羅漢石も、じっくり鑑賞していただきたい。この羅漢石、10体ほどあろうかと思うのだが、それぞれの表情をじっくりと観察すれば、その豊かな表情にここまでの散策の疲れが癒されることと思う。



神田川側にある椿山荘庭園の外壁

**い** よいよ帰路に着こうかというところであるが最後に鳥尾坂を下って帰ろうと思う。鳥尾坂は、先ほど通った獨協中学・高等学校の脇にある。この坂を下っていけば、音羽通りと平行に走る首都高の方に出る。坂を下ったところにある標識には次のように記されている。

～この坂は直線的なかなり広い坂道である。坂上の左側は獨協学園、右側は東京カテドラル聖マリア大聖堂である。明治になって旧関口町192番地に鳥尾小弥太(陸軍軍人、貴族院議員、子爵)が住んでいた。

西側の鉄砲坂は人力車にしても自動車にしても急坂すぎたので、鳥尾家は私財を投じて坂道を開いた。地元の人々は鳥尾家に感謝して「鳥尾坂」と名づけ、坂下の左わきに坂名を刻んだ石柱を建てた。～



鳥尾小弥太が私財を投じて開いた鳥尾坂

鳥尾は、陸軍内においては政治的立場の相違から、先ほど散策した椿山荘の山縣有朋らと対立するなど反主流派を形成していた。後に、反主流派は陸軍を追われ、鳥尾も再び陸軍の要職に就くことはなかった。



坂の麓の鳥尾坂の石柱

**読** 者の中には「赤毛布」(あかげつと)(明治33年)という、当時の日本人の外国における面白い逸話集をご存知の方もおられるかと思う。この「赤毛布」に「鳥尾小弥太の毒代」という項がある。欧州外遊中の鳥尾がバリエで季節はずれの毒を散々食べ、請求された予想外の代金に驚愕するという逸話だ。ちなみに「赤毛布」とは、明治の言葉で「旅行中の失策。田舎ものの異称」といった意味で使われた明治時代のスラングだ。この本は、国立国会図書館がサービスを提供する、近代デジタルライブラリーで公開されている。この近代デジタルライブラリーは明治以降に刊行された図書・雑誌のうち、インターネットで閲覧可能なデジタル化資料を公開しており、貴重な資料の閲覧が可能なサービスだ。

興味のある方は、散策の途中に買った豆大福を齧りつつ読んでみてはいかがだろうか。

面白いエピソードを読みながら、当時の日本人に関する見識を深めることができると思う。



近代的なビルと歴史のロマンの交差した音羽通り周辺のエリア。音羽通りの正面奥に護国寺が見える。